

第13回 多くの仲間と弦楽器を奏でる喜び

～ 第43回全国高等学校総合文化祭（さが総文） ～

7月28日から29日、佐賀県佐賀市文化会館で開催された第43回全国高等学校総合文化祭（さが総文）の器楽・管弦楽部門で神奈川県合同ストリングオーケストラの一員として演奏を披露した光陵高校管弦楽部2年神崎さん[Vn.1]（K）、丸山さん[Vn.2]（M）、岡部さん[Vn.2]（O）、照沼さん[Va.2]（T）、石川さん[Vc]（I）に話を伺いました。

今日は都合でここにはいませんが、佐藤さん[Vn.1]を加えて6人で、佐賀大会に参加したのですよね。まずは、この大会に神奈川県代表として参加するきっかけについて教えてください。

昨年秋、私たちが1年生だった頃に話がありました。オーディションを受けなければならぬのですが、人前で演奏するチャンスと思って参加することにしました。

オーディションの様子を聞かせてください。

審査員の先生が、何人かいらっしゃる部屋に一人で入り、課題曲を演奏します。順番を待っているときに、前の人の上質な演奏が聞こえてくるのですが、それもプレッシャーになって、極度の緊張状態でした。

結果がわかったときの気持ちはどうでしたか。

結果的に6人全員が行けることになって、びっくりしましたが、うれしかったです。

佐賀での発表に向けてどのような準備をしたのですか。

パートが決まり、楽譜をもらって、1週間もたたないうちに最初の合同練習がありましたが、新入生歓迎会とも重なり、大変でした。光陵高校を含めて12の高校から参加者が集まってきていて、普段から、練習量がとても多い学校もあり、ついていくのが大変でした。指導して下さった先生が、うまく演奏するということもあるけれど、まずは楽しんでほしいと言ってくれました。私たちも、当然うまく弾きたいという思いはありましたが、一つひとつ丁寧に、そして最後まで楽しく参加できるようにしようと思いました。トータルで10回くらいの合同練習があり、定期試験前は厳しかったです。



合同練習をとおして、私学も含めて他校の人との交流もできたので、良かったです。

7月29日、器楽・管弦楽部門の最後を飾るステージで、メンデルスゾーン作曲「弦楽のための交響曲 10 番」を約 90 人の神奈川合同ストリングオーケストラとしての演奏を私も客席で聞かせてもらいました。大迫力の素晴らしい演奏でしたが、いかがでしたか。

合同練習を何回か重ねてきたこともあってあまり緊張しませんでした。このような大編成で演奏できることはめったにないことなので、楽しんで演奏できたと思います。演奏が終わって、楽しかったし、達成感がありました。



弦楽器の魅力を聞かせてください。

- (I) チェロが弦楽器の中で、一番音域が広いので、ベースのカッコいい音や、メロディのきれいな音も出せます。そして、一番自然なフォームで演奏できるとも言われています。
- (O) 弦楽器は音程が定まらない難しさがありますが、特に高音がきれいにし出したときはうれしいです。
- (M) ヴァイオリンという楽器は、木でできているからか、優しく丸い音が出せることが魅力かなと思います。
- (T) ヴィオラは中音域を受け持っています。高音域でもなく低音域でもなく、普通の人は気が付かない音を担当するのですが、ヴィオラの音があることで、演奏に深みが出るのが魅力に感じています。
- (K) 一定の音を出すのは難しいのですが、いい音が出せたときは、自分が上達しているのを実感できます。

皆さん、弦楽器の演奏経験はどのくらいですか。

全員が、高校に入ってからです。中学校時代の部活動が音楽関係の人もないと思います。

弦楽部に入部しようと思った理由を聞かせてください。

- (T) 元々、音楽関係の部活動に興味があり、吹奏楽、LMC(軽音楽)も考えました。仮入部の際に、いろいろな楽器を弾かせてもらい、こういう楽器を弾けたらいいなあと思

って入部しました。

(O) 弦楽部に入りたいと思ったことが、光陵高校を志願した大きな理由です。小さい頃からピアノはやっていたのですが、一人ではなく何人かで一緒にアンサンブルをやってみたいと思っていました。

(I) 新入生歓迎会の演奏を聞いて、低音の魅力に惹かれました。自分でも演奏できたらいいなと思って入部しました。

(K) 仮入部したときに、先輩たちが優しく、アットホームな雰囲気があり、素敵な部活動だなと思い入部しました。

(M) 小学生の頃からヴァイオリンに興味はあり、知り合いがやっていたということもあり、高校入学を機会に始めました。

弦楽部のことを教えてください。普段はどんな練習をしているのですか。

現在、部員は1・2年生で13名で、全員初心者です。去年までは、ヴァイオリンをずっとやってきた先輩を中心に活動をしてきましたが、今は経験者がいないので、個人練習をベースにして、発表が近くなると合奏する中でお互いに意見交換しながら曲を仕上げています。選曲はメンバー皆で相談して決めています。

現在は、12月14日にやまと文化ホール（小田急線・相鉄線 大和駅下車徒歩3分）で行われる「第19回 神奈川県高等学校器楽・管弦楽演奏会」（神奈川県高等学校文化連盟、神奈川県教育委員会主催）に向けて準備をしています。光陵高校弦楽部としては、ホルスト作曲「セントポール組曲第1楽章・第2楽章抜粋」を演奏します。また、神奈川の合同オーケストラとして、モーツァルト作曲「アイネ・クライネ・ナハトムジーク第1楽章」、芥川也寸志作曲「トリプティーク」を演奏します。多くの方にご来場いただけたらうれしいです。

部活動と勉強を両立させるのは大変だと思いますが、どんな工夫をしていますか。

(I) 私は、部活動や委員会活動の他に、チェロのレッスンを週1回受けています。毎日、帰宅してから、絶対2時間は勉強すると決めています。

(M) 私はこの夏休み後から、朝早く学校に来て勉強するようにしています。

(K) 私は、自分が納得できない結果になるのはいやなので、やるべきことを先延ばしにしないということを意識しています。

(O) 通学時間が長いので、部活動も勉強も集中してやるようにしています。

(T) 自分の好きなことは意欲を持って学ぶことができるので、特に社会は、雑学的なことも含めて、本を読んだり調べたりしています。KU（光陵ユニバース：総合的な学習の時間）では、音楽が人に与える影響について研究しています。

皆さんが、とても楽しそうに演奏している様子、そして奏でる音楽を、今年の光陵祭でも拝見しました。これからも、充実した活動を続けてほしいと思います。今日は、どうもありがとうございました。